

## 序

学 校 長                      仲                      新

ここに本校の昭和33年度紀要を世に送ることとなった。本校の紀要は、既に第1集から第3集まで刊行せられ、この紀要は第4集にあたる。本校では昭和31年度から教育学部との共同研究の体制を整え、新しい研究組織のもとに中等教育の研究を進めて来た。昨年度の紀要すなわち第3集から新しい研究体制による研究成果を中心として編集することとなり、その意味で本年度の紀要はその第2集というべきものである。

本校の共同研究は、先ず「中等学校における基礎教育」を研究テーマとしてとりあげて研究を進めている。その研究成果を昨年度は第1回の「中等教育研究協議会」において発表するとともに紀要第3集に収録した。本年度は昨年10月30日、31日の2日間にわたり第2回の中等教育研究協議会を開催し、その1部を発表したが、この紀要ではその際発表した内容とさらにその時発表し尽せなかったものを合せて昨年度の研究成果を収録した。

共同研究は総合部門と教科部門から構成せられ、「総合部門」では「読書指導」をとりあげており、「教科部門」では各教科毎に基礎教育の観点からそれぞれ独自の問題をとりあげている。いずれも昨年度からの継続研究であり、本紀要では昨年度に引続いてなされた研究の成果を収録した。そのほか本校の研究体制の概要を示すために、本年度の研究組織、研究題目等を巻頭に掲げ、また巻末には本年度の中等教育研究協議会の模様等を雑報として収録した。以上のように本校では共同研究に重点をおいているが、個人研究もそれ自身重要であるとともに共同研究の基礎としても重視すべき考えている。従ってこの紀要においても各個研究の欄を設けて、今回は2編を収録している。

本年度の紀要を刊行するにあたり、ここに本校の研究状況のあらまし、この紀要を刊行する趣旨等について述べ、本校の未熟な研究に対して御批判と御指導を期待する次第である。